

- ◇ この日本語訳版 ISBD2025 スケジュールは、布団ちゃん(@larilurehapy)が ChatGPT と力を合わせて作ったものです。完璧ではないかもしれないので、ご参考までにお使いください。
- ◇ 英語での公式スケジュールはこちらでご確認ください：<https://isbd.societyconference.com/conf/#sessions/conf10006>

ISBD 2025 年次学会スケジュール（日本語訳）

9月17日（水）午前の部

◆8:00～10:00 | ワークショップ・セッション（同時開催）

《ワークショップ①》「人を動かし、協力関係を築く：双極症の分野でネットワークを広げる戦略」

司会：エマ・モートン（Monash 大学）

登壇者：

- タチアナ・カフィフ（サンパウロ大学医学部）
- カミラ・ミスコウィアク（コペンハーゲン大学）
- マイケル・オスタチャー（スタンフォード大学医学部）
- サラ・シュレイ（『BrainStorm』映画プロデューサー、双極 II 型障害を持つ）
- マヌエル・サンチェス・デ・カルモナ（アナワク大学医学部）
- シェリ・ジョンソン（カリフォルニア大学バークレー校）
- ジェイコブ・クラウス（シドニー大学）

《ワークショップ②》「双極症の薬物治療：芸術と科学」

司会：ナシール・ガエミ（タフツ大学）

共同司会：パウル・ヴェーリンガー（チリ大学）

登壇者：

- ガエミ医師：リチウムとケタミンに関する現実と誇張
- ヴェーリンガー医師：ケタミンの新たな治療可能性
- ガブリエレ・サニ（サクロ・クオーレ・カトリック大学）：抗うつ薬と混合状態治療
- ギン・マリ（シドニー大学）：モデレーター

《ワークショップ③》「双極性うつに対する認知行動療法」

司会：キム・ライト（エクセター大学）

登壇者：

- ハッラ・オーラフスドットティル（アイスランド大学病院）
- スティーブン・ジョーンズ（ランカスター大学）
- 窪田信子（ノーチラス会）

《ワークショップ④》「双極症のある女性にとっての更年期管理」

司会・登壇者：タニア・ペリッチ（西シドニー大学）

登壇者：ウェンディ・マーシュ（マサチューセッツ大学医学部）

《ワークショップ⑤》「気分、食事、運動：双極症の健康を改善する栄養と運動に関する ISBD タスクフォースが

らの洞察」

司会：エリサ・ブリエツケ（クイーンズ大学）、ベニー・ラファー（サンパウロ大学医学部）

登壇者：

- ファビアーノ・ゴメス（マクマスター大学）
- モデレーター：エレナ・コーニング（クイーンズ大学）

◆10:15～10:45 | 開会式

内容：ISBD2025 年次大会の公式開会イベント

◆10:45～11:15 | 基調講演①「精神疾患のスティグマを払拭する」

講演者：ドゥヴィカ・ブーシャン（スタンフォード大学医学部）

精神科医であり、元カリフォルニア州のサージョン・ジェネラル代理。自身の双極症の経験を公表し、スティグマ解消と治癒への希望を広めている。映画『BrainStorm』にも出演。

◆11:15～13:15 | ISBD 提供の昼食休憩（スポンサーシンポジウムあり、CME 対象外）

9月17日（水）午後の部

◆13:45～14:15 | 基調講演②「治療ガイドラインの最新情報」

講演者：シモーヌ・ヴィゴッド医師（トロント大学）

内容：カナダ気分不安障害治療ネットワーク（CANMAT）2025年版「周産期の気分障害の治療ガイドライン」に関する最新情報。妊娠期と出産前後の母親のメンタルヘル스에特化し、アクセスのギャップやケアの改善策に焦点を当てている。

◆14:15～15:45 | シンポジウム・セッション（同時開催）

《シンポジウム①》「双極症が家族に与える多次元的影响」

司会：アンドレア・ヴァシレフ

登壇者：

- ボリス・ビルマーヘル医師（ピッツバーグ大学）：発症前症状とリスク要因
- デイビッド・マイクロウィッツ博士（UCLA）：双極症と家族の相互影響
- ブランディ・フエアマン博士（Bipolar Action Network）：配偶者および親としての経験

《シンポジウム②》「高齢者におけるリチウム治療の安全性と有効性に関する ISBD 勧告の実装」

司会：ケネス・シュルマン医師

登壇者：

- ケネス・シュルマン医師（リチウムの維持治療のリスクとベネフィット）
- レイ・フー博士：臨床検査から見たリチウム治療の実現可能性
- リサ・アイラー博士（UC サンディエゴ）：改善および普及戦略の適用

《シンポジウム③》「多様な集団における双極症の表現型と遺伝的背景」

司会：カル・リャオ博士（ハーバード & MIT ブロード研究所）

登壇者：

- ロッキー・ストラウド（ハーバード公衆衛生大学院）：アフリカ・メキシコ系の研究紹介
- ロース・オルデ・ローフェイス博士（UCLA）：165,000 人規模の研究成果
- カル・リャオ博士：19 万人超の解析から特定された新規関連遺伝子

《シンポジウム④》「プレジジョン精神医学の可能性と課題」

司会：ラクシュミ・ヤサム教授（ブリティッシュコロロンビア大学）

登壇者：

- デイビッド・ボンド博士（ジョンズ・ホプキンス）：治療標的のデータ駆動型探索
- ハールマン博士：腸-脳相関とプロバイオティクスの影響
- ベニー・ラファー博士（サンパウロ大学）：個別最適化された心理療法

Rapid Oral Session 1（口頭発表セッション①）も同時時間帯に開催。

◆16:00～17:30 | シンポジウム・セッション（同時開催）

《シンポジウム①》「グループ心理療法の再定義：ピアサポートによる成果向上とアクセス改善」

司会：ジェニファー・レヴィン博士

登壇者：

- 宗未来 医師（東京歯科大学市川総合病院）：メタバースでの大規模 CBT の RCT
- ルイーザ・シルビア博士（マサチューセッツ総合病院）：段階的治療プログラムへの統合

《シンポジウム②》「双極症における新しい代謝治療」

司会：ナタリー・ラスゴン教授（スタンフォード大学）

登壇者：

- ロジャー・マッキンタイア医師（トロント大学）：代謝疾患と気分障害の関係
- アイセギュル・オゼルデム医師（メイヨークリニック）：中枢インスリン抵抗性
- フランシスコ・ロペス＝ヒメネス医師：心血管リスク低減へのアプローチ

《シンポジウム③》「ラーニングヘルスケアの枠組みに基づいた双極症の深層表現型解析」

司会：キャサリン・バーディック博士（ハーバード大学）

登壇者：

- マーク・フライ医師（メイヨー）：社会的決定要因と心代謝リスク
- カーラ・アルティマス博士（Milken Institute）：深層表現型の臨床応用

《シンポジウム④》「隠された重荷：スティグマは双極症の当事者にどう影響するか」

司会：サイモン・キッチン（Bipolar UK）

登壇者：

- イヴ・メア（Bipolar UK）

- アンドレア・ヴァシレフ博士（臨床心理士）

Rapid Oral Session 2（口頭発表セッション②）も同時間帯に開催。

◆17:30～19:00 | ウェルカムレセプション&ポスターセッション①

9月18日（木）午前の部

◆7:45～9:15 | 疾患教育サテライト・シンポジウム（CME 対象外）

主催：ブリストル・マイヤーズ スクイブ社

講演者：ロジャー・マッキンタイア医師（MD, FRCPC）

※製薬企業によるスポンサーシンポジウム。詳細な内容は未記載。

◆9:45～10:15 | 基調講演③「ビートは続く：双極症における概日リズム経路の現在地」

※講演者の詳細情報は記載されていませんが、テーマは概日リズム（サーカディアン・リズム）に関する最新研究。

◆10:15～10:45 | 基調講演④「双極症における認知スクリーニングと認知改善介入の最適化：臨床ニーズ・現状エビデンス・今後の展望」

講演者：カミラ・ミスコウィアク博士（コペンハーゲン大学）

内容：神経認知と感情障害に関する研究グループ（NEAD）を率いる認知神経精神医学の教授であり、気分障害患者を対象に神経認知検査や脳画像を用いた研究を行っている。

◆10:45～11:30 | ISBD アワード授賞式

優れた研究者や活動を表彰するセレモニー。

◆11:45～13:15 | 昼食 & 業界サテライト・シンポジウム（CME 対象外）

この時間帯にも製薬業界主催のセッションが実施されます（CME 対象外）。

昼食は ISBD より提供されます。

◆13:15～14:45 | シンポジウム・セッション（同時開催）

《シンポジウム①》「認知機能と日常生活への移転をターゲットにした最先端 RCT」

司会：カミラ・ミスコウィアク博士

登壇者：

- ケイティ・ダグラス博士（オタゴ大学）：対人・社会リズム療法+集団認知リハビリの RCT
- アンドレアス・イエスパーセン博士（NEAD センター）：VR ベースの認知リハビリの RCT
- ディモステニス・ツァペコス博士（キングスカレッジ・ロンドン）：認知と機能の移転メカニズム

《シンポジウム②》「高齢者双極症に関する最近の研究」

司会：アンネミーク・ドルス博士（ユトレヒト医療センター）

登壇者：

- フェデリカ・クラウス博士（UC サンディエゴ）：認知機能保持のための 5 つの戦略
- ニ・シュウ博士（北京大学）：高齢者へのリチウム処方時の留意点 5 つ
- マーサ・サヤトビッチ博士（ケース・ウェスタン大学）：身体的健康最適化のための 5 つの方策

《特別講演》 サミュエル・ガーシオン若手研究者賞受賞者によるプレゼンテーション

9月18日（木） 午後の部

◆15:00～16:30 | シンポジウム・セッション（同時開催）

《シンポジウム①》 「リチウム・イメージング：その始まりから臨床応用へ」

司会：デイビッド・カズンズ博士（ニューカッスル大学）

登壇者：

- デイビッド・カズンズ博士：リチウムイメージングの歴史と展望
- ファウジ・ブメズブル博士（パリ・サクレ大学）：MRIによる脳内リチウムと代謝の可視化
- フィリップ・リッター医師（ドレスデン工科大学）：リチウムの中枢薬物動態

《シンポジウム②》 「ISBD アジア支部による双極症の臨床ガイドラインの共通点と相違点」

司会：松尾幸治 医師（埼玉医科大学）

共同司会：ラクシュミ・ヤサム 教授（ブリティッシュコロンビア大学）

登壇者：

- 松尾幸治 医師（日本）
- 河太賢 教授（韓国・ソウル大学）
- 陳俊 医師（中国・上海精神衛生センター）
- 陳寶詩 教授（台湾・成功大学）：「2022年更新版：双極症の生物学的治療に関する台湾コンセンサス」

《シンポジウム③》 「当事者による体験談：双極症と物質使用障害の併存」

司会：ブライアン・トリヴァー 医師（サウスカロライナ医科大学）

登壇者：

- マシュー・ブッシュェル（南アフリカ）：ピアサポート・コーチ
- マイケル・オスタチャー 医師（スタンフォード大学）：治療は「道徳的な義務」
- ブライアン・トリヴァー 医師：臨床研究の不足について

Rapid Oral Session 3（口頭発表セッション③）も同時間帯に開催。

◆16:45～17:30 | 基調講演ディベート⑤

「双極症におけるAI（人工知能）の診断・治療・管理への応用は現実か幻想か？」

司会：ホリー・スワルツ 医師（ピッツバーグ大学）

ディスカッサント：

- ジョン＝ホセ・ヌネス 医師（ブリティッシュコロンビア大学）
- トレバー・ヤング 医師（トロント大学）

内容：AIの双極症への応用の現状、可能性、課題について専門家が討論。

◆ 17:30～19:00 | ポスターセッション②

9月19日（金）午前の部

◆8:00～9:30 | シンポジウム・セッション（同時開催）

《シンポジウム①》「双極症に対する補助的介入の3つの新たなアプローチ」

司会：ケイティ・ダグラス博士（オタゴ大学）

登壇者：

- シェリ・ジョンソン博士（カリフォルニア大学バークレー校）：「健康的な食生活と治療の RCT」
- ケイティ・ダグラス博士：「行動活性化療法の実現可能性試験」
- タチアナ・カフィフ（サンパウロ大学）：ACT(アクセプタンス&コミットメント・セラピー)の RCT

《シンポジウム②》「双極症の不安定性：新しい測定方法・予測因子・臨床アウトカム」

司会：サラ・スペリー博士（ミシガン大学）

登壇者：

- マリア・フォーホルト＝イエプセン博士（デンマーク）：症状の不安定性
- サラ・スペリー博士：デジタルフェノタイピングによる個別特性の測定
- キャスリーン・メリカンガス博士（NIMH）：睡眠・活動・概日リズムの遺伝的共通性

《シンポジウム③》「高齢期の双極症におけるリチウム」

司会：メアリールー・セロ（ISBD）

登壇者：

- オレステス・フォルレンツァ博士（サンパウロ大学）：リチウムを服用する高齢者の臨床像
- トーマス・ハイエク博士（ダルハウジー大学）：リチウムと緑内障リスク
- セルジ・パピオール博士（マックスプランク精神医学研究所）：リチウムと分子時計遺伝子の相互作用

《シンポジウム④》「双極症におけるミトコンドリア遺伝学と機能」

司会：マーク・フライ医師（メイヨークリニック）

登壇者：

- アナ・ヒメネス＝パロモ博士（バルセロナ）：疾患相におけるミトコンドリア呼吸能力
- アナ・アンドレアツァ博士（トロント大学）：核 DNA にコードされたミトコンドリア遺伝子と精神疾患の関係
- マヌエル・ガルデア・レセンデス医師（メキシコ）：抗うつ薬がミトコンドリア機能に与える影響と躁転リスク

Rapid Oral Session 4（口頭発表セッション④）も同時間に開催。

◆9:45～10:15 | 基調講演⑥「視床傍核の役割：ミトコンドリア機能障害仮説から読み解く双極症」

※詳細な登壇者は未記載ですが、視床、ミトコンドリア、脳機能のつながりがテーマです。

→加藤先生??

9月19日（金）午後の部

◆10:15～11:45 | シンポジウム・セッション（同時開催）

《シンポジウム①》「新しい CANMAT および ISBD による双極症管理のためのガイドライン」

司会：ラクシュミ・ヤサム教授（ブリティッシュコロンビア大学）

登壇者：

- スマダー・トゥールジマン教授（モントリオール大学）：急性躁状態に対する管理
- アヤル・シャッフアー医師（トロント大学）：双極Ⅰ型うつおよび維持期治療
- ホリー・スワルツ医師（ピッツバーグ大学）：心理社会的介入に関するガイドライン

《シンポジウム②》「双極症における心血管疾患の性差と臨床要因」

司会：トーマス・ハイエク教授（ダルハウジー大学）

登壇者：

- ファビアーノ・ゴメス博士（マクマスター大学）：心疾患併存の臨床的相関
- デイビッド・ボンド博士（ジョンズ・ホプキンス大学）：喫煙・肥満・症状重症度の因果関係モデル
- エリシャ・リンギン博士（メルボルン大学）：UK Biobank の性差分析結果

《シンポジウム③》「双極症におけるリスクとレジリエンス」

司会：マンプリート・シン医師（カリフォルニア大学デービス校）

登壇者：

- マノン・ヒレガーズ教授（オランダ）：親の精神疾患と子のレジリエンスへの影響
- パオロ・ブランビッラ博士（ミラノ大学）：マルチモーダル解析による予測
- ジャイル・ソアレ博士（テキサス大学）：疾患バイオマーカー探索の取り組み

《シンポジウム④》「双極性うつに対するニューロモデュレーションの新展開」

司会：ダニエル・ブランバーガー医師（CAMH）

登壇者：

- 李政達 教授（台北）：rTMS の後ろ向き解析
- 野田賀大 医師（慶應義塾大学）：安静時 EEG マイクロステートの指標
- ダニエル・ブランバーガー医師：電気けいれん療法の CORRECT-BD 試験

Rapid Oral Session 5（口頭発表セッション⑤）も同時間に開催。

◆12:00～13:30 | ISBD 女性イニシアティブ・セッション & 昼食休憩

ISBD より昼食提供

◆13:30～15:00 | シンポジウム・セッション（同時開催）

《シンポジウム①》「光がもたらすもの：双極症における光曝露の役割」

司会：トーン・エリース・ヘンリクセン博士（ノルウェー）

登壇者：

- ダニエル・スミス博士（エディンバラ大学）：光感受性に関する研究（HELIOS-BD）
- ミヒャエル・バウアー博士（ドレスデン工科大学）：太陽光曝露と双極症の関係

- 江崎悠一 医師（桶狭間病院）：日中および夜間光曝露と睡眠の質の関係

《シンポジウム②》「ライフスパン全体から見る双極症」

司会：ベンジャミン・ゴールドスタイン医師（CAMH）

登壇者：

- マーサ・サヤトビッチ医師：高齢期と成人期の比較
- ボリス・ビルマーヘル医師：18年間の小児双極症の追跡研究
- カトリン・クトルチナー：診断遅れと偏見の解消に向けた提言

《シンポジウム③》「ピアサポートによるアプローチ」

司会：エリン・ミカラック博士（ブリティッシュコロロンビア大学）

登壇者：

- フィオナ・ロバン博士（ランカスター大学）：オンラインフォーラムの影響
- エマ・モートン博士（Monash 大学）：地域ピアグループの質的研究
- スティーブン・ジョーンズ博士：当事者体験ライブラリの共同設計

《シンポジウム④》「医療併存疾患の複雑な風景：双極症と表現型・遺伝」

司会：ヨアンナ・ビェルナッカ博士（メイヨークリニック）

登壇者：

- ジョージナ・ホサング博士（ロンドン大学）：複数疾患の併存パターン分析
- ホルヘ・サンチェス＝ルイス医師：診断・多遺伝子リスクと他疾患との関連解析
- オーレ・アンドレアッセン教授（オスロ大学）：共通遺伝因子の解析

Rapid Oral Session 6（口頭発表セッション⑥）も同時間に開催。

◆ 15:15～16:45 | シンポジウム・セッション（同時開催）

《シンポジウム①》「日本における双極症の当事者活動の現状と将来」

司会：松尾幸治 医師（埼玉医科大学）

共同司会：渡邊衡一郎 教授（杏林大学）

登壇者：

- 松浦秀俊（Liva）：ピア主導の就労支援と Web 活動
- 木野内南（名古屋大学）：オンライン心理教育
- 鈴木映二 教授（東北医科薬科大学）：NPO「ノーチラス会」の取り組み

《シンポジウム②》「双極症の縦断的経過とアウトカム」

司会：メルビン・マッキニス教授（ミシガン大学）

登壇者：

- アナスタシア・ヨーカム博士：パーソナリティが経過に与える影響
- ジョヴァンナ・フィコ医師：バルセロナ・ユニットの知見

- オフェリア・ゴダン博士：フランス FACE-BD コホートの報告

《シンポジウム③》「音声から見る双極症：AI と計算論的表現型」

司会：バイハン・リン博士（マウントサイナイ）

登壇者：

- ミケーレ・デ・プリスコ医師（バルセロナ）：音声の情動分析
- ジェレマイア・ジョイス医師（メイヨー）：躁状態における言語指標
- バイハン・リン博士：AI を用いた自然言語分析による表現型抽出

《シンポジウム④》「概日リズムの乱れと双極症」

司会：ジョーイ・チャン博士（香港中文大学）

登壇者：

- ビンビン・レイ教授（広州中医薬大学）：リズム乱れとリスクの関係
- イ・ホンジョン教授（高麗大学）：ウェアラブルとスマホでのリズム測定
- ジョーイ・チャン博士：光刺激後の瞳孔反応と夕方型の関係

Rapid Oral Session 7（口頭発表セッション⑦）も同時間に開催。

◆ 16:45～17:15 | 閉会式